

(前頁より)

「春がすみ」

最後は花。「春は花、夏はとき、秋は月」でありまして、春の花というイメージは、禅にとって、あるいは仏教にとつて、法華経にしても、華嚴経にしても、花という日本の芸道の中で一番日本的と言われている能楽。その能楽の原理は花伝書と言っているわけですが、能の花といった考え方は、十をみたんじやなくして、花に見られる牛図とともに禅から来ているわけでありまして、

花の中で禅の問答としておもしろいのは、桃の花を見て悟りを開いたという話です。その状況は細かく申し上げる余裕はなくなりました。花といえ、日本は桜、中国は桃。桃という花は、つまり、桃という実を結ぶところに中国の特色を持つわけです。蓮の花もやはり実が大事なんですねけれども、日本の桜は、サクランボよりも、花が一挙に咲いて一挙に散るといふ山桜の方へ視点が移ってまいりますが、どうも中国の桃は、桃が不老長寿の仙人の食べ物として長い歴史を持つことと関係があると思えますけれども、桃の花が咲いているのを見て悟った、霊雲という和尚様の悟りの話があります。

桃の花はまさに中国大陸独特でありまして、日本にも桃はあるけれども、到底我々の想像を絶する台地一面桃色にたなびく春がすみのような感じ。地面全体が桃の花として我々に迫ってくる感情が中国大陸に戻して理解できると思うわけでありまして、かすみの場合でも、中国には色が

私に見られるために桃は花を開き、実を結んでいくわけであり、この瞬間の美しさを、霊雲が花を見て悟ったという物語はあらわし出していると思えます。蓮の花も、インドのように、日本にはきれいな花ではない。やはり蓮はインド、桃は中国、桜は日本であるわけですが、あの桜が「願わくば花の下にて春死なむその如月の望月のころ」という西行の歌ですね。桜の花の下で死にたい二月十五日。お釈迦様の涅槃の日に死にたいという。西行の桜の歌というものが、中世の桜の代表的な記録であらうと思えます。大事なのは、桜の花が日本人にとつて墓場の花であること。「敷島のやまと心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」。

年配の方は、この歌を存じといますけれども、これで我々は戦争を遂行しようとしたわけでありまして。実は「敷島のやまと心」は宣長の辞世であり、宣長の墓地の花、墓地の歌であったわけですね。このことを初めて明らかにしたのが小林秀雄の「本居宣長」でありまして、宣長は自分のお墓に桜を植えた。桜が墓地のイメージを持つていて、これを宣長はふまえてあの歌をつくつていまして、桜を植えたわけでありまして。実は「敷島の」というのはお墓のことなんです。お墓に埋められた私ごとこに在るか人が尋ねるなら、旭に匂ふ山桜を自指して訪ねてきてくれという、桜が自分の滅後の印になるわけですね。

日本人にとつては、この桃を桜の上で問題になるわけですが、「ゆい川の水の流ればたえずして」というあのうたがたのイメージも実は同じ構造を持つております。これはインドのガンジス川のイメージからくるわけですね。京都では鴨川、祇園精舎、建仁寺という重なり合いを持つていますが、中世の無情感を桜にイメージしてまいりまして、散るから無情であるんじゃないかと、開く満開の瞬間が無情であるというところで、天中する月と全く同じ構造を持つていまして。大まかな「禅のこぼ」の持っている基本構造を幾つかの禅語によつて申し上げてみたわけでありまして。そして「雪月花」とか「田相」といったシンボルとしてのテーマを、禅語の代表的なものとして認めていきたいと思います。

つまり、時というものが、一刻のどとまることなに移り変わっていく時の動き、刻々と動いていく時を、我々に最も明らかに示してくれるのが桜であり、満開の時期であったわけでありまして。このように見ていきますと、日本人と桜と日本人独自の無情感というもの、いわゆる否定的な、何かじめじめした暗い形の無情感ではなくして、むしろ新しいものがそこに生まれてくるわけですね。命の完全なる燃焼をシンボルとした桜として中世人は新しく見出したんじゃないかと思えます。孔子が川のそばに立っておりまして、水が流れていく。水が刻々と流れて、一刻もとどまらないうのは、何か無情な暗い一面をあらわしたものか。むしろ物が一個所にとどまらないうで永遠に動いて、新しい活動を続けていく積極性をあらわしたものかというところが、常に論語解釈

「無情感」

自分の一代を総括して墓に桜を植えたわけですね。桜といふものは、実は中世日本においては、西行からずうっと始まって、無情感とながっているわけでありまして。そして、その花が散っていくという無情感、散っていく無情というよりも、ある朝、突然花を開く満開の桜が実は無情をあらわしている。

つまり、時というものが、一刻のどとまることなに移り変わっていく時の動き、刻々と動いていく時を、我々に最も明らかに示してくれるのが桜であり、満開の時期であったわけでありまして。このように見ていきますと、日本人と桜と日本人独自の無情感というもの、いわゆる否定的な、何かじめじめした暗い形の無情感ではなくして、むしろ新しいものがそこに生まれてくるわけですね。命の完全なる燃焼をシンボルとした桜として中世人は新しく見出したんじゃないかと思えます。孔子が川のそばに立っておりまして、水が流れていく。水が刻々と流れて、一刻もとどまらないうのは、何か無情な暗い一面をあらわしたものか。むしろ物が一個所にとどまらないうで永遠に動いて、新しい活動を続けていく積極性をあらわしたものかというところが、常に論語解釈

鳥海金蔵氏 株式会社鳥海製作所 (大田区西糀谷三二一八代表者 鳥海保男氏) 取締役会長 鳥海金蔵氏 (九六歳はかねてより病氣療養中のところ薬石効なく去る四月十四日天寿を全うされ) 逝去されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。長井とよ氏 荏原工業株式会社 (大田区久が原四二九〇) 代表者 長井俊史氏 (母長井とよ氏は、永らく病氣療養中のところ、薬石効なく去る六月九日逝去されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

現代の地球規模のさまざまな課題に禅がどういう貢献をするか。或はその貢献というそのことを、もう一度洗い直すことを禅が求め得るかどうか。やはり禅の貢献になるわけですね。ご静聴ありがとうございました。 (平成三年五月二九日講演抜粋)

淡路島伊弉諾神宮にて (木鶏会)

組合員だより

信藤松五郎氏 シンドー工業 株式会社取締役 会長 天田区鶴の木二一九一 三代表者 信藤松五郎氏 (去る一月十日、病氣療

富田 新氏 合資会社富田製作所 (大田区萩中三二二〇) 代表者 西野三郎氏 (去る三月二六日逝去されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。)

鳥海金蔵氏 株式会社鳥海製作所 (大田区西糀谷三二一八代表者 鳥海保男氏) 取締役会長 鳥海金蔵氏 (九六歳はかねてより病氣療養中のところ薬石効なく去る四月十四日天寿を全うされ) 逝去されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。長井とよ氏 荏原工業株式会社 (大田区久が原四二九〇) 代表者 長井俊史氏 (母長井とよ氏は、永らく病氣療養中のところ、薬石効なく去る六月九日逝去されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

現代の地球規模のさまざまな課題に禅がどういう貢献をするか。或はその貢献というそのことを、もう一度洗い直すことを禅が求め得るかどうか。やはり禅の貢献になるわけですね。ご静聴ありがとうございました。 (平成三年五月二九日講演抜粋)

蒲田工業会館の 集会室を ご利用ください

(会議・教室等にご利用下さい)

【使用料】

① 3階講堂 (収容人員 約50名)

	平日	冷暖房費
午前 (9:00~12:00)	3,000円	1,000円
午後 (1:00~4:30)	3,000円	1,000円

② 2階サロン室 (収容人員 4名~20名)

	平日	冷暖房費
午前 (9:00~12:00)	2,500円	1,000円
午後 (1:00~4:30)	3,000円	1,000円

※組合員は3割引です。
※消費税は別途お願いします。



淡路島伊弉諾神宮にて (木鶏会)



左記の図書が入りました。貸出しをしていますのでお申し出下さい。

記

- 「リフレッシュ・セミナー」 財中小企業労働福祉協会 編
- 「労働時間短縮の方法と実務」 全国労働基準関係団体連 編
- 「労働時間短縮マニュアル」 産業労働調査所 編
- 「中小企業における高齢者活用と就業条件調査」 東京都労働経済局 編
- 「退職金・年金事情」 財中小企業労働福祉協会 編
- 「給与実態」 財中小企業労働福祉協会 編
- 「年間賞金・賞与の実態」 財中小企業労働福祉協会 編
- 「労政時報」 財中小企業労働福祉協会 編
- 平成二年度モデル賞金 慶弔見舞金給付実態



組合 総会



木鶏会 総会



業務報告

福利厚生費
中途採用者賞金
管理職の賞金水準の実態
住宅融資制度
決定初任給一覧
交替制勤務の実態と時短改善例
国内出張旅費

マルケイ
資金融資を
ご存じですか！
小企業経営改善資金融資は
無担保
無保証人
四五〇万円まで
金利は低利
申込手続は簡単
手数料不要
ご相談は当組合事務局
(三七三) 七八二又は
東南大田支部
(三七三) 一六二一へ
尚大田区・東京都等の制度融資
等の斡旋をしていますのでご相談
ください。

一月五日 仕事始め
機関誌「工業蒲田」新年号発行
主な記事
石森理事長年頭ご挨拶。
新春放談あれこれ。
経営ウィークリー。図書室だより。
短期技能講習会。組合員だより。
リフレッシュ休暇制度。
業務報告。
組合員有志新年連名広告。
一月十一日 新春講演会
テーマ「今年の景況と企業経営」
講師 財国民経済研究協会
理事長 叶芳和氏
新春賀詞交歓会
一月十五日 秋父七福神初詣(木
鶏会)
一月十八日 機関誌「工業蒲田」
速報版発行
主な記事
節税教室。冬季経営セミナー。
一月二十二日 青年部経営サロン
(木鶏会)

**二月六日 定例経営サロン(木鶏
会)**
主な話題
赤字の累積と経営者のポリシー。
経営者の個人資産の管理。
3Kとマスコミ。
二月八日 工場見学会(木鶏会)
見学先 大昭和精機(株)淡路工場
二月十九日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
「企業経営において最も重要な
モノは何か？」のビデオを見て
意見交換。
二月十九日(土) 技術指導
講習会「アーク溶接の特別教育」
二月十九日 企業見学会(木鶏会)
青年部
見学先 ヤマトシステム開発(株)
二月十九日 講演会(木鶏会青年
部)
テーマ「糖尿病の恐ろしさ」とそ
の子防」
講師 大田区衛生部主幹蒲田保
健所予防課長 鈴木和子氏
三月六日 定例経営サロン(木鶏
会)
主な話題
湾岸戦争について。
経営者の決断について。
三月十二日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
ビデオ「自分の会社の成功の鍵
は？」により成長要因、時代背
景、成功要因等の研究。
三月十三日 中央会青年部地域別
経験交流会(木鶏会青年部)
三月十九日 朝食会(木鶏会)
於高輪アリスホテル
三月二十五日 機関誌「工業蒲田」
速報版発行
主な記事
新製品 新技術開発助成金概要
三月二十五日(土) 技術指
導講習会「やさしい図面の見方」
三月二十七日 工場見学会(木鶏
会)

四月二日 日本理化学工業(株)
見学先 第十一回通常総会(木
鶏会)
1. 平成二年度事業報告並びに決
算報告承認の件。
2. 平成三年度事業計画案並びに
収支予算承認の件。
以上原案通り全員異議なく承認可
決。
四月二日 研究会(木鶏会)
テーマ「湾岸戦争後と日本」
講師 NHK解説委員 山室英
夫氏
四月二日 懇談懇親会(木鶏会)
四月十六日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
求人対策について。
時短について。
四月十九日 常任理事会
1. 平成二年度事業報告・決算報
告・剰余金処分案について。
2. 平成三年度事業計画案・予算
案について(賦課金額・徴収
方法を含む)
3. 平成三年度借入最高限度・一
経営分析セミナー。
節税教室。
最低賞金のお知らせ。
事務局休日のお知らせ。
五月二十一日 青年部経営サロン
(木鶏会)
監督署の小坂次長・西尾監督官
を交え、人手不足特に若年者の
採用難の中で時短のすすめ方
等の研究。
五月二十九日 第四二回通常総会
1. 平成二年度事業報告承認の件
2. 平成二年度決算報告承認の件
3. 平成二年度剰余金処分案承認
の件
豊間監事より監査報告あり以
上原案通り可決決定。
4. 平成三年度事業計画案承認の
件

五月二十九日 青年部(木鶏会)
東京府中小企業団体青年部協議
会通常総会及び東京大会
六月十九日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
時短と年間休日について
年齢給と能率給について
社員紹介による従業員採用につ
いて

**六月十日 機関誌「工業蒲田」速
報版発行**
主な記事
第四二回通常総会決議報告
六月十二日 懇親ゴルフコンペ
(木鶏会)
於総成センター倶楽部
六月十七日 機関誌「工業蒲田」
速報版発行
主な記事
夏季経営セミナー。
六月十八日 青年部(木鶏会)
六月十九日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
時短と年間休日について
年齢給と能率給について
社員紹介による従業員採用につ
いて

**六月五日 定例経営サロン(木鶏
会)**
1. 人材育成補助金について。
2. バス代補助事業について。
3. パソコン補助申請について。
4. 職員夏季手当について。
主な話題
講師 花園大学教授・国際禅学
研究所長 柳田聖山氏
五月二十九日 懇談懇親会
六月五日 常任理事会
1. 人材育成補助金について。
2. バス代補助事業について。
3. パソコン補助申請について。
4. 職員夏季手当について。

五月二十九日 講演会
テーマ「禅のこぼれ」
以上全案原案どおり可決決定。
五月二十九日 講演会
テーマ「禅のこぼれ」

四月二日 研究会(木鶏会)
テーマ「湾岸戦争後と日本」
講師 NHK解説委員 山室英
夫氏
四月二日 懇談懇親会(木鶏会)
四月十六日 青年部経営サロン
(木鶏会)
主な話題
求人対策について。
時短について。
四月十九日 常任理事会
1. 平成二年度事業報告・決算報
告・剰余金処分案について。
2. 平成三年度事業計画案・予算
案について(賦課金額・徴収
方法を含む)
3. 平成三年度借入最高限度・一
経営分析セミナー。
節税教室。
最低賞金のお知らせ。
事務局休日のお知らせ。
五月二十一日 青年部経営サロン
(木鶏会)
監督署の小坂次長・西尾監督官
を交え、人手不足特に若年者の
採用難の中で時短のすすめ方
等の研究。
五月二十九日 第四二回通常総会
1. 平成二年度事業報告承認の件
2. 平成二年度決算報告承認の件
3. 平成二年度剰余金処分案承認
の件
豊間監事より監査報告あり以
上原案通り可決決定。
4. 平成三年度事業計画案承認の
件

組合 総会

木鶏会 総会

暑中御見舞申上げます

蒲田工業協同組合員有志

(五十音順)

機械器具製造業

尼寺空匠工業株式会社

代表取締役 尼寺春一

大阪伸栄工業株式会社

代表取締役 鶴巻英樹

合資会社 大津鉄工所

代表取締役 大津暢

株式会社 弘機商会

代表取締役 坪根五久代

坂口精密工業株式会社

代表取締役 坂口俊夫

炭研精工株式会社

代表取締役 永井彌太郎

ティヴィバルブ株式会社

代表取締役 竹内栄多

株式会社 東京精密器具製作所

代表取締役 西ヶ谷静司

長坂精機株式会社

代表取締役 長坂基秀

日本チエンギヤ―無段変速機株式会社

代表取締役 加藤進弘

有限会社 富士精機製作所

代表取締役 荻野幸男

藤田工業株式会社

代表取締役 藤田雅康

株式会社 藤原製作所

代表取締役 藤原長作

株式会社 文化精工

代表取締役 桑原久直

株式会社 妙徳

代表取締役 伊勢養治

株式会社 山田精機製作所

代表取締役 山田重利

電気機械器具製造業

出雲電機株式会社

代表取締役 雲野和信

株式会社 小林電機製作所

取締役社長 小林竹平

株式会社 瀧口製作所

取締役社長 瀧口正文

株式会社 東電舎

代表取締役 石森憲蔵

株式会社 中山電機工芸社

代表取締役 中山致

永森電機株式会社

取締役社長 永森忠夫

株式会社 日産電機

代表取締役 中村國男

株式会社 マコメ研究所

代表取締役 植村三良

輸送用機械器具製造業

江崎工業株式会社

取締役社長 江崎武

荏原工業株式会社

取締役社長 長井俊樹

株式会社 大谷造機所

取締役社長 大谷文雄

株式会社 清川製作所

代表取締役 川瀬純一

多田プレス工業株式会社

取締役社長 多田嘉之

株式会社 東京スピンドル製作所

代表取締役 堀井脩市

(次頁へつづく)

暑中御見舞申上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

顧問	千葉博	相談役	尼寺春一	相談役	岡田清	相談役	富田耕平	理事	石森憲蔵	副理事長	西ヶ谷勝美	専任理事	市川宗紘	専任理事	赤井弘志	専任理事	杉谷順弘	専任理事	増田道造	専任理事	新井陽一	専任理事	岩崎登喜雄	専任理事	大谷文雄	専任理事	加藤進弘	専任理事	川瀬純一	専任理事	工藤勝彦	専任理事	小林章彦	専任理事	鳥海保男	専任理事	長井俊樹	専任理事	長坂基秀	専任理事	長坂三郎	専任理事	西野三郎	専任理事	野口喜広	専任理事	福島喜勝	専任理事	正田竜三	専任理事	豊間厚	監事	中山致
----	-----	-----	------	-----	-----	-----	------	----	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	----	-----

暑中御見舞申上げます

蒲田工業協同組合員有志

(五十音順)
(前頁より)

輸送用機械器具製造業

株式会社 鳥海製作所
取締役社長 鳥海保男

日本中空鋼株式会社
代表取締役 市川宗紘

有限会社 運沼機械製作所
代表取締役 佐久間庄吉

株式会社 ユタカ製作所
代表取締役 佐藤恒徳

金属製品製造業

株式会社 旭川製作所
代表取締役 武田弘

佐々木発条株式会社
代表取締役 佐々木良彦

シンドー工業株式会社
代表取締役 信藤秀夫

第一シャーリング工業株式会社
代表取締役 福島喜勝

東亜株式会社
代表取締役 小柳隆

トヤマ機器工業株式会社
取締役社長 能登厚

同和発条株式会社
取締役社長 川島慎治

株式会社 羽田パイプ製造所
取締役社長 野口広

有限会社 早崎製作所
代表取締役 早崎吉春

有限会社 古川塗装工業所
代表取締役 古川金一

株式会社 松原製作所
代表取締役 松原一喜

プレス・鋅金業

株式会社 赤井製作所
代表取締役 赤井弘志

株式会社 内田製作所
取締役社長 内田正勝

株式会社 内原製作所
技術課長 内原康雄

株式会社 榎田製作所
代表取締役 榎田幸司

岡田鋅金株式会社
代表取締役 増田道造

協和鋅金株式会社
代表取締役 服部和央

株式会社 清水鉄工所
代表取締役 清水重幸

大和部品株式会社
代表取締役 今井敏夫

株式会社 東亜製作所
代表取締役 古橋透

株式会社 蛭田電機製作所
代表取締役 蛭田好勝

鍍金業

エビナ電化工業株式会社
取締役社長 海老名平吉

株式会社 三協アルマイト
代表取締役 岩崎登喜雄

製罐業

株式会社 新井久四郎鉄工所
代表取締役 新井陽一

鋳物・鍛造業

恩田鉄工株式会社
代表取締役 武井武

有限会社 京浜鑄造所
代表取締役 神道晃

杉谷金属工業株式会社
代表取締役 杉谷順弘

その他

岩佐工機株式会社
代表取締役 岩佐勇

有限会社 大森青木建設
代表取締役 青木武志

河原テント株式会社
代表取締役 河原祥浩

株式会社 気球製作所
代表取締役 豊間厚

秀和工業株式会社
代表取締役 岡田みつ

太産工業株式会社
代表取締役 千葉博

株式会社 太産企業商事
代表取締役 千葉博

合資会社 シノ
代表社員 西野三郎

株式会社 日章機械
代表取締役 小林章彦

株式会社 日伸製作所
取締役社長 富田耕平